北總の十六島

大町桂月

青空文庫

利根川の下流、霞ヶ浦の末と相會する處、十六島は今ひとつに成りたれども、水路縦横、烟霞縹渺、白帆相望み、漁歌相答へ、名たゝる三社、屹として水　に鼎立す。三社とは、香取祠、鹿島祠、息栖祠、是れ也。

高天原より下りて、一劍天下を風靡し、餘威を常總のはてまでも及ぼし給ひたる二大偉人の、武甕槌命は鹿島に鎭し、經津主命は香取に鎭せらる、げに尊くも又なつかしき神靈の地なる哉。

明治三十四年の春の暮、學友羽衣、烏山二子と共に、この地に遊びぬ。われ二子と同じく學びの窓を出でてより既に五年、その間たゞ衣食の資を得るに急にして、一も得たる所なし。學窓を出でし時、五年たちても斯く碌々たるべしとは思はむや。五年前、學校の業を卒へたる年の秋の暮、二子と共に房總の間に遊びたる時の事を追懐して、自から忸怩たらざるを得ず。今や五年ぶりにて、再び二子と吟　を共にし、江湖の外に優遊しける也。

看れども見えざる細雨を衝いて、香取祠に詣づ。崛起せる丘上、千年の老杉森々として、神さび立てる一宇の古龕、神鈴音なく、樓門の矢大臣も寂しげなり。名にし負ふ櫻の馬場、櫻樹數十章、今を盛りと咲きたれども、惜しや、雨に訪ひくる人もなし。懸崖の上の茶亭に憩ひて、眺望するに、千里模糊として、さながら淡墨の山水畫を見るが如し。脚下の堊壁は津の宮にや。溶々たる大利根の下流、それと知られて、白帆屋上を行く。十六島は一望たゞ平蕪に歸して、徂徠せる雲烟の稍　絶ゆる處、遙に潮來の市街を見る。千里の眼を座に移せば、圖らずも、萩の舍、巴戟天舍、二先生の筆蹟なほ新らしき二幅竝びかゝれり。まのあたり二先生に對する心地せられ、八九年前、教へをうけし時の事ども思ひ起して、感慨に堪へざりき。

津の宮の鳥居河岸は、船舶の集散する處也。利根川を上る汽船、下る汽船は更なり、和船をやとひて、潮來にいたるべく、鹿島に至るべし、息栖に至るべし。孤蓬雨を衝いて、舟は、萠え初めたる蘆荻の間をゆく。長汀曲浦ゆきつくして、兩岸に人家點綴する處、即ち加藤洲也。名高き十二橋こゝにかゝれり。桃花雨中に媚び、椿の花、時にぽつりんと舟中に落つるも、あはれなり。十二橋の下を過ぎて、北利根川に出づ。潮來の人家、近く水にのぞめり。鹿島にゆくには、その潮來の花街を左に見て、園邊川を下る也。

潮來出島の眞菰の中で、あやめ咲くとはしほらしやと歌はれたる烟華の地、燈光絃歌と共に水に落ち、園邊川依然として今に臙脂を漲らす。高樓の上、時に鼓聲の嫋々たるを聞く。絃歌の聲太だ急なるは、菖蒲踊を踊れるにや。潮來圖誌に曰く、『潮來の里は、東都五町街にならひし廓也。朝夕の出船入船、落ち込む客の全盛は、花の晨雪の夕、十六島はいふも更なり、香取、鹿島、息栖、銚子の浦々まで一望に浮び、富士、筑波の兩峯は西南に連なり、眺望世にすぐれたる好境也』と。又曰く、『西の入口に潮浪里と呼ぶ小坂あり。潮のさしひきある故に、さは名づけしならむ。爰より遊女町まで十餘町。その間は淺間下とて、いや高き竝木なり。潮來のばら〳〵松とも云ひて、沖乘船の目あての森とぞ。春は梅藤の名木、四季の眺め、いとよし。霞ヶ浦、信田の浮島、手に取る如く見ゆ』と。説き得て、勝概をつくせるものと云ふべし。

げに、霞浦刀水の間、十六島附近の烟霞の趣は、また類ひあるべうも思はれず。仰いで神世の昔、香取、鹿島兩神の雄圖を偲び、眼前の風光、一層ゆかしき心地す。請ふ君、逝いて回らぬ刀水にのぞ

みて、我が生の須臾なるを嘆ずることをやめよ。明月の下、蘆花雪を吹くのほとり、願はくは、黄塵にけがれたる衣を江上の清風に振ひ、手づから巨蟹を捕へて、扁舟の巾に醉臥せむ哉。

（明治三十四年）

青空文庫情報

底本：「桂月全集　第二巻　紀行一」興文社内桂月全集刊行會
　　1922（大正11）年7月9日発行
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：H.YAM
校正：門田裕志、小林繁雄
2008年8月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

北總の十六島

大町桂月

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/